



南部町立南部中学校 学校だより 第23号

# 千一ム南部中

令和4年3月15日(火)  
校長 望月和彦

## 令和3年度卒業式 47名の巣立ち

3月10日(木)本校の第11回卒業証書授与式を行いました。新型コロナウイルス対策のため、参加者は卒業生とその保護者、在校生は芦川圭澄生徒会長のみ、来賓も佐野和広町長様、入月一巳教育長様、正副議長様と教育委員様と教職員に制限しての式となりました。1時間半の中身でしたが、ぴんと張り詰めた厳粛さの中にも、本校を卒業し新たな進路に巣立つ卒業生の思い、卒業生の門出を祝福する保護者や



来賓の方々の温かい気持ち、今後の活躍を期待する教職員の願いなどが詰まった感動の卒業式になりました。学級担任の呼名に卒業生たちは大きな声で「はい」と応え、卒業証書を凛々しく受け取りました。入月教育長様からは「養花一年 看花三日」(桜はすぐに散ってしまう花だが、わずかな期間に美しい花を咲かせるために、一年間じっと冬の寒さや夏の暑さ、秋の強風に耐え、精一杯努力している。そんな花だから誰からも愛されている。)という大切な言葉を贈っていただきました。芦川生徒会長は送辞の中で、様々な場面で自分たちの目標となり、導いてくれた卒業生に対する感謝の気持ちを伝え、卒業生が築いてくれた文化を受け継ぎ発展させられるようがんばることを述べました。在校生全員の気持ちを代表しての立派な送辞でした。



そして、「巣立ちの時」。主人公である卒業生一人一人が中学校生活三年間を振り返って、感謝の気持ちとこれからの決意を述べ、音楽発表会で2年生と3年生の時に学年合唱として歌った「春」と「群青」を聞かせてくれました。感染を防ぐため、練習は公立高校入試後の3日ほどしかできなかった上、マスクをつけたままで歌うという条件下での合唱でしたが、聴いている私は体が震え、目頭が熱くなりました。まさに心に染みる歌声と姿でした。会場にいた保護者や来賓の方々も同じ感想を持たれたと思います。佐野遥斗さんは答辞の最後の部分で次のように決意を述べました。「僕たち47人は、皆様の期待を背負ってこの南部中学校を卒業します。新たな一歩を踏み出していく僕たちにはきっと多くの楽しいことと大変なことが待っています。逃げ出したくなる現実と向き合わなければならないときもきっとやってきます。でも、どんな状況に置かれてもみんなと過ごしたかけがえのない日々を思い出そう。仲間を生かそう。がんばるを支えよう。繋がりを大切にしよう。仲間のために本気になろう。全員が仲間のために一生懸命になれる集団の中には温かさが生まれることを僕たちは知っているから、どんな状況でも前を向き仲間と自分のために行動できる自分たちである事をここに誓い、答辞とします。」式の最後には、3年生が校歌を合唱で歌ってくれました。コロナのために、体育館で生徒の校歌合唱を聞くのは2年ぶりのことです。感慨も一入でした。

卒業式後には、3年教室で卒業生と学級担任の雨宮文教諭、遠藤浩正教諭をはじめ3年部職員で最後の学活が行われました。生徒一人一人がスピーチをしたり、学級担任が最後のメッセージを伝えたりして、生徒と教員の感動的な時間になったようです。保護者の皆様には体育館とランチルームでライブ映像を楽しんでもらいました。



卒業式後には、3年教室で卒業生と学級担任の雨宮文教諭、遠藤浩正教諭をはじめ3年部職員で最後の学活が行われました。生徒一人一人がスピーチをしたり、学級担任が最後のメッセージを伝えたりして、生徒と教員の感動的な時間になったようです。保護者の皆様には体育館とランチルームでライブ映像を楽しんでもらいました。



私は、式辞の最後の部分で次のような話をさせていただきました。

…（前略）…さて、巣立っていく皆さんに、これから期待することをお話しします。皆さんがこれから生きていく社会は、世界の国々との繋がりが今まで以上に密接で複雑になり、AIやIoTと言われるような新しいテクノロジーによって生活が便利になる一方で、地球温暖化などの環境問題の深刻化や新型コロナウイルスなどの未知の脅威、国内では人口減少と少子高齢化など、これまでと異なる予測困難な新しい社会になります。そうした社会の一員として生き、その社会を支えていくのが、皆さんたちであるということです。二月二十四日、世界の批判の声を無視して、ロシアが東欧のウクライナに侵入し戦争が勃発するという悲しい出来事がありました。戦争を選ぶか、平和を選ぶかを決めるのは国のリーダーですが、国のリーダーを選ぶのはその国の人々です。自分を含めてすべての人々が幸せになるためには、世界や日本はどうあるべきか。山梨や南部町はどうあるべきか。私はどうするべきか。しっかりと自分の考えを持ち、行動できる人になってほしいと思います。この南部中学校は皆さんも知っているとおり、明治初期に近藤喜則翁が「蒙軒学舎」という私塾を建てた歴史ある場所に建っています。近藤喜則は「この南部の地にこれからの時代を支える人材を育てたい」という思いから、県内初の外国人講師による英語教育をはじめ、当時としては先進的な学校をつくりました。本校にはその蒙軒学舎の建学の精神が脈々と受け継がれています。皆さんはその蒙軒学舎のあった場所で三年間学んできたのです。そのことに誇りを持って、これからの時代で活躍し、社会を支える「知恵」や「逞しさ」を身につけていってください。学問を積み知識や技術を蓄えることも大切ですが、様々なことを経験し、時には失敗しながら工夫することで身につけられる力もあります。逞しく生きるとはそうことだと思います。本校校歌の冒頭でも「わからないなら問いかける 失敗したらやりなおす」とこのことを説いています。卒業後はそれぞれが異なる道に進みますが、どんな困難に出会っても前を向いて逞しく生きてください。君たちの行く手には、無限の可能性が広がっています。卒業生の前途に幸多かれ。…（後略）…



## 本校生徒たちの活躍

卒業式前日9日の朝、本年度最後の賞状伝達式を行いました。

【第65回山梨県小中学校創作力くらべ】<支部入選> 石原あゆみ

【第10回鵜沢間税会「税を考える週間」書道大会】

<推薦> 若林実希, 一瀬友希, 田中亜衣菜

<特選> 山本庚実, 瀧井ひなの, 芦澤那奈, 田中景晨, 依田大輝, 前栗藏裕馬

【教育祭書き初め大会】

<県特選> 若林実希, 樋口あい, 依田大輝, 石川侑音, 田中亜衣菜, 望月 玲

<地区入選> 1年生 11名 2年生 12名 3年生 11名

【西関東吹奏楽連盟表彰状】 中野綺萌

【山梨県吹奏楽連盟表彰状】 望月優香, 石川侑音, 佐野遥斗, 小山陽菜, 高野舞鈴, 四條海翔

【山梨県バレーボール協会優秀選手賞】 佐野昇熙, 山田流稀

【山梨県野球連盟中学生優秀選手賞】 若林雅斗

【9年間虫歯のない子表彰】 前田鈴音, 宮下千宙, 望月優香, 望月莉夕菜, 石川侑音, 田中亜衣菜

中野綺萌, 前栗藏裕馬, 望月紗菜

※今年度1年間に、本校の生徒個人や部や学校全体などが表彰された件数は、合計で219件がありました。本校の生徒たちが様々な面で活躍してきたことがわかります。



## 卒業式の会場は…

卒業式の会場準備と片付けは、式に参加できない1・2年生が頑張ってくれました。これも本校の伝統で、こうした活動を通して卒業生への感謝の気持ちを表すとともに、学校を支える自覚を高めています。



## 玄関の飾り付け

本校には東側、北側、南側に玄関があります。その玄関には用務員の高山さんが季節に合わせた飾り付けをしてれています。生徒たちや来校者、教職員の気持ちを和ませてくれています。

